科目ナンバリング	G-LAS14 80012 LJ37						
授業科目名<英訳>	外国語習得論2 Theories of Foreign Language Learning and Teaching 2			担当者所属職名・氏名	人間・環境学研究科 教授　中森　誉之		
群	大学院横断教育科目群	分野(分類)	キャリア形成系			使用言語	日本語
旧群		単位数	2単位	週コマ数	1コマ	授業形態	講義（対面授業科目）
開講年度・開講期	2026・後期	曜時限	水1	配当学年	大学院生	対象学生	全学向

（人間・環境学研究科の学生は，全学共通科目として履修登録できません。所属部局で履修登録してください。）

[授業の概要・目的]

入門期，初級から中級段階にかけての外国語学習者が直面する諸課題について，言語科学理論の知見を援用しながら検討する。教育学的可能性を探りつつ，基本的な知識とともに，幅広い視座と深い見識を身につけることを目標とする。外国語学習者が直面する困難性を理論的に解明して，その成果を授業実践にどのように生かしていくのかについて，学校教育臨床研究の立場から多角的に考究する。

[到達目標]

1)外国語授業の構成要素を幅広く理解できる
2)学習者のつまずきの発見と克服策を理論的に考究できる
3)リサーチの知見を援用して，外国語学習・指導の背後にある理論とその有効性を検証できる
4)実際の(あるいは架空の)問題を研究し解決する際の手続きを考案できる

[授業計画と内容]

以下のテーマについて，2週程度を費やして論じていく。
１．コミュニケーション　２．入力情報処理　３．音声面の学習
４．語彙と文法の学習　　５．カリキュラム設計

[履修要件]

可能であれば，総合人間学部提供（コンソーシアム科目）の「英語学習指導論」（前期水１）を受講すること。または、拙著のうち、和書を熟読して理解しておくこと。

[成績評価の方法・観点]

各テーマについて，講義と発表を交互に展開していく。成績は，授業時に担当する数回の発表，および発表への参加状況に基づく。
発表時間は30分，その後15分の質疑応答を行う。発表内容は，テーマに関連する論文や図書を最低でも計10点以上は読み，自らの問題意識を提起する。発表用のハンドアウト（PowerPoint可）を用意し，私には印刷して提出すること。参考文献リストも付けること。
登校して聴講した際は出席管理装置を通してください（エラーとなっても記録されます）。

[教科書]

Takayuki Nakamori 『Chunking and Instruction』（ひつじ書房）

[授業外学修（予習・復習）等]

教科書の熟読。批判的思考。

[その他（オフィスアワー等）]

受講者の皆さんには，自らの外国語学習経験を客観的に内省し，次世代を担う知識人として，ぜひ建設的な見識を身につける機会として欲しいと思います。外国語教育関係の仕事を志望する方，外

外国語習得論2(2)へ続く↓↓↓

外国語習得論2(2)

国語教育を経験・勘・思い付きではなく最新・最先端の学術的な視点から客観的に見つめ直したい方，塾や家庭教師で英語を教えている方，言語習得論を考究したい方，その他純粋に興味関心がある皆さんの受講を歓迎します。
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

[主要授業科目（学部・学科名）]